



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

# KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 138

2021

12.6

## 全国のまちづくり事例を学ぶ学習会

### 第2回まちづくり事例上映会 「地域運営組織の取り組み事例共有会」

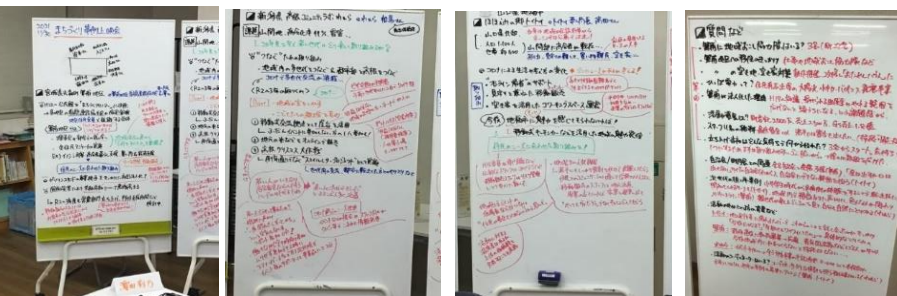
11月30日(火)にコミュニティ創造協会さんが開催された「地域運営組織の取り組み事例共有会」に参加させていただきました。



明石市では小学校区のまちづくり組織が中心となって、まちづくりが進められています。この学習会は全国の先進的な事例を報告していただきながらまちづくりについて考えようというものです。今回は宮城県丸森町筆甫地区、新潟県村上市高根地区、山口県山口市阿東地区の3地区の地域運営組織をオンラインで結んで、報告されたことに対する質疑をおこないながら対話を深めていきました。全国各地を結んで対話をおこなう中で、各地ですすめられている先進的な取組の情報を得ながら、新たな視点でコミュニティ・スクールを考えるいい機会になりました。こうしたいろいろな立場の人や、大学、企業等とオンライン等でつながりながら視点を広げ、考えをつくっていく学びは、これからどんどん学校現場にも入ってくるんだろうなと感じました。

また今回は、過疎化の中で高齢化等が進み、地域存続に向けての課題がどんどん生まれてくる地域からの報告でした。その中で高齢者の日常の買い物や、顔をあわせることで日常の確認、働く場所の創出など地域の中で対話を重ねながら新しい仕組みを創り出している姿を見せていただき、自分の視野を広げることができました。対話に参加しながらこうした課題は過疎地の課題ではなく、我々の身近にも迫っているのではと感じました。こうした地域の現状や課題に目を向けていくのは未来を担う子どもたちにとっても必要なことだと感じました。対話の中で、将来に向けての地域人材の育成には中学校を卒業するまでに地域活動の運営を体験することが将来につながっていくといった話がありましたが、そうした機会を学校・地域・保護者の対話の中で作りだしていくのがコミュニティ・スクールなんだと改めて感じることができました。

12月19日(日)には「まちづくりへの多様な関わりを考える講演・事例紹介」としてまちづくり勉強会がコミュニティ創造協会さん主催で開かれます。事例紹介では「多様な人材を巻き込む工夫」として中崎まちづくりの会さん、朝霧校区まちづくり協議会さん、二見北まちづくり協議会さんからの事例紹介があり、



「多様な人材を巻き込む工夫」として中崎まちづくりの会さん、朝霧校区まちづくり協議会さん、二見北まちづくり協議会さんからの事例紹介があり、

興味深い内容です。会場での参加だけでなく、オンラインでの聴講も可能なのでちょっと覗いてみられるのはいかがでしょうか。新たな刺激をもらえるのではと思っています。

申込・お問合せ：明石コミュニティ創造協会  
Tel. 078-918-5248 Fax. 078-918-5157 Mail. sozo@akashi135.jp  
会場参加かオンライン聴講かをお伝えください。

### 地域課題を学校も共有する意義

「地域運営組織の取り組み事例共有会」の対話の中で、将来に向けての地域人材の育成には中学校を卒業するまでに地域活動の運営を体験することが将来につながっていくといった話がありました。では、地域課題を学校も共有する意味って何なんでしょうか。子どもの時から地域課題を見つめる目を育てていくことは、将来地域の一員として地域課題に取り組む人材を育てることにつながっていきます。地域とは今住んでいる地域だけでなく、将来住むことになる地域もちろん含みます。自分自身のことを考えてみると、今まであまり地域にかかわってこなかった人間にとって、コミュニティ・スクールに取組みはじめて急に地域の課題といわれても、それは「誰かがなんとかしてくれるもの」と、ピンとこなかったのが正直なところ。今の大人は私と同じような感覚を持たれている人が多いのではと思います。サービスを受けるのに慣れてしまい、地域課題に自分自身も取り組む当事者だという意識がどんどん薄れていっているのだと思います。“大人になっていきなり社会のことを、日本のことをといわれても・・・”というのが日本社会のある意味での課題ではと思います。そこで最近、主権者教育といった言葉を目にするようになってきましたが、これまでも環境教育・キャリア教育・・・といった〇〇教育といったものが一杯あり、これからも社会の変化に伴ってどんどん生まれてくるのだと思います。しかし、そうした〇〇教育とは授業で扱ったから身につく力ではないと感じられている方も多いのではと思います。経済成長が著しい時の人材育成という視点では可能だったのかもしれませんが。社会状況が大きく変わった今、持続可能な社会の担い手として社会の良き形成者として必要とされる資質・能力は、そうした社会課題の解決にまさしく立ち向かっていく力だと考えます。自分たちの身近な地域の中で、地域課題を見つめながら地域の人と共に学ぶことは、様々な課題を感じながら社会課題に立ち向かっていく一歩を踏み出しているのだと考えます。そのためにはまず学校・地域・保護者の資質・能力のとらえを持続可能な社会の担い手として必要な資質・能力にアップデートしていくことが必要なのだと思います。すなわち、これまでの対策・対処療法的スタンスから創生・創出的なスタンスへと学びのあり方を根本的に問い直すことが求められており、だからこそ“社会総がかりで”といわれているのだと考えます。その問い直す仕組としてコミュニティ・スクールがあると考えます。

### 社会全体で「保育・子どもの未来を考える6日間」

この11月末に「保育をどうしよう未来会議」が開催されました。子どもたちの学びと育ちの連続を考えるうえで興味深い内容です。登録さえすれば1月15日まで無料で視聴することができます。

#### 学びと育ちの連続のために

累計視聴者数10,000人突破！



- 「明日の保育」を語り合う -

す。この冬ご覧になれるのはいかがでしょうか？

視聴登録⇒ <https://info.unifa-e.com/l/888213/2021-09-17/22yvdx>

(文責：北本)